

高等学校 令和5年度（5学年用） 教科 公民 科目 公共

教科：公民 科目：公共 単位数：1 単位

対象学年組：第5学年 A組～D組

使用教科書：（公共（東京書籍））

教科 公民 の目標：

- 【知識及び技能】 選択・判断の手掛かりとなる概念や理論、及び倫理、政治、経済などに関わる現代の諸課題について理解しているとともに、諸資料から様々な情報を適切かつ効果的に調べとめている。
- 【思考力、判断力、表現力等】 現代の諸課題について、事実を基に概念などを活用して多面的・多角的に考察したり、解決に向けて公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論している。
- 【学びに向かう力、人間性等】 国家及び社会の形成者として、よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。

科目 公共 の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論について理解するとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べとめる技能を身に付けるようにする。	現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手掛かりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養う。	よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される。現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生きる国民主権を担う公民として、自衛を重し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国が協力し合うことの大切さについての自覚などを深める。

単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	評価規準	知	思	態	配当 時数
4月 第1部 公共のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち ・社会に参画する自立した主体とは、孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生き、他者との協働により当事者として国家・社会などの公共的な空間を作る存在であること学ぶ。 ・古今東西の先人の取り組み、知恵などを踏まえ、社会に参画する際の選択・判断するための手掛かりとなる概念や理論を理解する。	第1部「公共」のとびら 第1章 公共的な空間をつくる私たち—社会のなかの自己 (1)現代社会に生きる青年 (2)社会的な関係のなかで生きる人間 第2章 公共的な空間における人間としての在り方生き方—共に生きるための倫理	【知識・技能】 ・ 人生の中で青年期はどのような意味をもつのか、自らの体験などを振り返ることを通して、自らを成長させる人間としてのあり方生き方について理解している。 ・ 人間は、個人として相互に尊重されるべき存在であるとともに、対話を通して互いのさまざまな立場を理解し高めあうことのできる社会的な存在であることを理解している。 ・ 自分自身が、自主的によりよい公共的な空間を作り出していこうとする自立した主体になることが、自らのキャリア形成とともに、よりよい社会の形成に結び付くことについて理解している。 ・ 選択・判断の手掛かりとして、行為の結果である個人や社会全体の幸福を重視する考え方や、行為の動機となる公正などの義務を重視する考え方などについて理解している。 【思考・判断・表現】 ・ 公共的な空間と人間との関わり、個人の尊厳と自主・自律、人間と社会の多様性と共通性などに着目して考えている。 ・ 孤立して生きるのではなく、地域社会などのさまざまな集団の一員として生きるとともに、異文化などの他者との協働により、人間としてのあり方・生き方を多面的・多角的に考察、表現している。 ・ 伝統や文化と自らの行動様式や価値観との関係について考察している。 ・ 幸福、正義、公正などに着目して考えている。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 公共的な空間をつくる私たちについて、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている ・ 公共的な空間でどのように生きるかについて、先哲の生き方などを参考に、人間としてのあり方生き方について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	8
5月 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち 第3章 経済社会で生きる私たち ・公正かつ自由な経済活動をおこなうことを通して資源の効率的な配分が図られること、市場経済システムを機能させたり国民福祉の向上に寄与したりする役割を政府などが担っていること及びより活発な経済活動と個人の尊重を共に成り立たせることが必要であることについて理解する。	テーマ1 現代の経済と市場 テーマ2 市場経済における金融の働き テーマ3 財政の役割と持続可能な社会保障制度	【知識・技能】 ・ 経済の基本的なしくみと資本主義経済、社会主義経済の特徴を理解している。 ・ 市場経済の機能と限界に関わる現実社会の事例や課題を理解している。 ・ 金融のはたらきに関わる現実社会の事例や課題を理解している。 ・ 資金の流れ、金融機関の役割、日本銀行の役割について理解している。 ・ 財政の役割と社会保障に関わる現実社会の事例や課題を理解している。 ・ 価格の変化が、消費者と企業の行動にどのように影響を及ぼしているか、さまざまな観点から多面的・多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 【思考・判断・表現】 ・ 市場機能の限界に対する公共財の供給について、政府の役割を多角的に考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・ 外部不経済の典型例である公害について理解し、公害を防止し環境を保全するための方策について考察、構想し、論拠をもって表現している。 ・ 経済成長が生活に与える影響を、具体的事例をあげて考察している。 ・ 財政政策の意義、日本の財政の課題を理解し、財政のしくみ、租税の意義と課題について、具体的に事例をあげて考察、構想し、主体的に考えている。 ・ 社会保障の意義を理解し、現在の社会保障の課題について考察している。 ・ 社会保障制度の充実・安定化に関し、各国の租税負担など財政状況を比較しながら、日本の社会保障制度の諸課題を多面的・多角的に考察、構想、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・ 市場経済の機能と限界について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・ 金融のはたらきについて、現代の諸課題を主体的に取り組もうとしている。 ・ 財政の役割と社会保障について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。	○	○	○	9
定期考査			○	○		1
第5章 国際社会のなかで生きる私たち ○有限な資源を将来にわたってどのようなルールの下で維持・管理するのか、漁業をめぐる国際社会	テーマ1 国際社会のルールとしくみ テーマ2 国際社会と平和主義 テーマ3 国際平和への課題	【知識・技能】 ・ 国際社会と国家主権に関わる現実社会の事例や課題を理解している。 ・ 現実社会の諸課題に関わる諸資料から、自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。				

5月・6月	<p>の課題を理解する。 ○漁業資源の国際的な管理のあり方について、多面的・多角的に考察し議論する。 ○国家間の利害が錯綜する課題解決としてのルールや国際協力を第5章で学ぶ他の課題についても生かせるようにする。</p>		<ul style="list-style-type: none"> ・日本国憲法の平和主義について理解を深めることができるように、現実社会の諸課題に関わる諸資料から、必要な情報を適切かつ効果的に収集し、読み取り、まとめる技能を身に付けている。 ・国際社会の変化と日本の役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・人種・民族問題と地域紛争の実態、難民問題に関する資料を、さまざまな情報手段を用いて収集し、課題の解決に向けて、国際社会では何がおこなわれているか、理解している。 【思考・判断・表現】 ・国際法の意義と役割について、多面的・多角的に考察、構想し、表現している。 ・国際社会と国家主権について、国境や領土をめぐる諸課題を主体的に解決するために、必要な情報を収集し、考察、構想している。 ・国際連合などの国際機関の役割や課題について、国際平和の維持と安定のために広い視野に立って考察、構想したことを、論拠をもって表現している。 ・日本国憲法の平和主義をふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、多面的・多角的に考察し、表現している。 ・核兵器を廃絶するためには何が必要かを考え、軍縮の意義や効果について、さまざまな観点から考察している。 ・変化する国際情勢の中で、日本の安全が世界の平和の維持といかに関連しているか、広い視点に立って理解し、様々な観点から考察している。 ・持続可能な開発(SDGs)にふれながら、国際社会の安定について、国民レベル、国家レベル、国際レベルで何ができるかを、さまざまな観点から考察し、論拠をもって表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国際社会と国家主権について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ・日本の安全保障と防衛について、国連憲章や日米安全保障条約、平和主義を掲げる日本国憲法の下、現代の諸課題の解決に向けて、主体的に取り組もうとしている。 ・国際社会の変化と日本の役割について、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	9
	<p>・経済がグローバル化の中で、貧困や格差などの問題を乗り越え、すべての人が幸福に暮らすために、国際社会や私たちがどうあるべきか考える。</p>	<p>テーマ4 グローバル化する国際経済</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・経済のグローバル化に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・グローバル化の進展により、貧困や格差の問題、地球環境問題などの解決が、地球的な課題となっていることを理解している。 ・国際経済問題の解決には、国家や国際機構などの多様な組織による協力が重要であることを理解している。 ・地域的経済統合がもたらす影響について理解している。 ・国際社会における貧困や格差が解消されていない現状について、国際機構の役割や政府開発援助の意義が大きいことを理解している。 ・資源の有限性を理解しつつ、新エネルギーなどの開発が期待されていることを理解している。 【思考・判断・表現】 ・貿易の意義、円高・円安が生じる理由、貿易摩擦などについて、考察、構想し、表現している。 ・地球環境問題が国際的な問題になっていることや、その解決に向けての取り組みを考察、構想し、表現している。 ・地理など他教科で学んだ知識もふまえ、幸福、正義、公正などに着目して、政治分野の国際機関の取り組みなどとも関連させ、多面的・多角的に考察し、表現している。 【主体的に学習に取り組む態度】 ・国際協力のあり方、国際協調の重要性から、日本の役割について自分自身の問題として、主体的に解決しようとしている。 	○	○	○	7
	<p>単位認定テスト</p>			○	○		1
<p>第2章 法の働きと私たち ・憲法の下、適正な手続きに則り、法や規範に基づいて各人の意見や利害を公平・公正に調整し、個人や社会の紛争を調停、解決することなどを通して、権利や自由が保障、実現され、社会の秩序が</p>	<p>テーマ1 法や規範の意義と役割 テーマ2 市民生活と私法 テーマ3 国民の司法参加</p>	<ul style="list-style-type: none"> 【知識・技能】 ・法や規範の意義及び役割に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。 ・法には国家と国民の間を規律する公法や、私人間を規律する私法などがあること、法は刑罰などによって国民の行為を規制し社会の秩序を維持するだけでなく、国民の活動を積極的に促進し、紛争を解決するなど、日常生活に密接に関連していることを理解している。 					

形成，維持されていくことについて理解する。

・基本的人権が保障されるにいたった経緯を，現実社会の諸課題に関わる諸資料から，必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。

- ・成年年齢が18歳以上となったことに対し，成年年齢の意味と成年の責任について理解している。
- ・契約と消費者の権利・責任に関わる現実社会の事柄や課題を理解している。

・現実社会の諸課題に関わる諸資料から，自立した主体として活動するために必要な情報を適切かつ効果的に収集し，読み取り，まとめる技能を身に付けている。

【思考・判断・表現】

- ・生徒に身近な紛争や課題を取り上げ，どのようにすれば公平・公正に調整できるのか，主体的なルールを作成・利用することで考察，構想，表現している。
- ・法をよりよく変えていくために，自由権の意味や，社会権が私たちの生活をどのように変えたのか，新しい人権とは何かをさまざまな立場に立って考察している。
- ・幸福，正義，公正などに着目して考えている。
- ・家庭科など他教科で学んだ知識もふまえ，幸福，正義，公正などに着目して，多面的・多角的に考察し，表現している。
- ・自立した主体として解決が求められる具体的な主題を設定し，その主題の解決に向けて事実を基に協働して考察したり構想したりしたことを，論拠をもって表現している。

【主体的に学習に取り組む態度】

- ・法や規範の意義と役割について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。
- ・契約と消費者の権利・責任について，現代の諸課題を具体的な例をもとに，主体的に解決しようとしている。
- ・司法参加の意義について，現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。